

科目名	社会科学Ⅲ Social Science Ⅲ			担当教員	三宅 岳史 (窓口教員：河野通弘)		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	14120050	単位区分	履修単位
学習目標	社会の役割と機能は何か？新聞・ニュースで取り上げられるような現代社会の様々な問題を社会科学の観点から扱う。それによって、身近な問題から社会科学的なものの考え方などを身につけ、実際の社会に出たときにも役立てることができることを目指す。						
進め方	現代社会の課題についてテーマごとの講義（書籍やDVDなどを使用）をもとにして、そのテーマで問題となっていることを考える。講義中心の予定であるが、テーマによっては議論や発表をいれて授業を進める。以下に挙げる内容は昨年の例であり、今年の内容は授業中の協議によって決める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 社会問題を通覧する(7) (1) 課題発見の技法 (2) 日本社会の課題を発見する 2. 格差と貧困を考える(8) (1) 生活保護とベーシックインカム (2) セーフティネット			ブレインストーミングやKJ法などを体験して、課題発見の方法を用いることができる。 政治・経済・外交・文化を含めた様々な領域で問題になっていることを総合的に説明できる。 貧困や非正規労働者増加の社会的背景を理解した上で、生活保護などセーフティネットの仕組みと社会的役割について議論できる。			
	[前期中間試験](2)			学習・教育目標：A			
	3. 共通番号制(7) (1) 共通番号制の問題 (2) 共通番号制の仕組み 4. 消費税を上げるべきか(8) (1) 消費税増税の背景 (2) 消費税増税の影響 (3) 税制の三本柱			共通番号制が議論されている背景と、その論点について整理することができる。 共通番号制の仕組みをふまえた上で、そのメリットとデメリットを議論できる。 消費税増税にある日本の財政問題（増大する社会保障費）や背景を説明できる。 消費税増税による影響（どのくらい財政赤字は減るのかなど）を議論できる。			
	前期末試験			学習・教育目標：A			
	5. 国境問題(10) (1) 交渉学の知見から見た国境問題 (2) 諸外国の国境問題 (3) 日本の国境問題 (4) 国境問題の解決例 (5) 国境問題は国境だけの問題ではない			交渉学や合意形成の基本的な知識をベースにして国境問題を論じることができる。 諸外国と日本の国境問題の歴史、紛争当事者間の視点を双方の立場から見ることができる。 そのうえでこれまでの解決策にならって、未来志向の解決策を考えることができる。			
	[後期中間試験](2)			学習・教育目標：A			
	7. TPPと地域間統合(8) (1) TPPの背景 (2) TPPとアジア・アメリカ 8. 原子力発電とエネルギー問題 (1) 原子力のメリットとデメリット (2) 未来のエネルギー政策を考える			TPPに参加する国々の戦略を理解した上で、食糧、知的財産、関税、金融などの各分野のメリットやデメリットを考察できる。 原子力をコストや二酸化炭素排出、事故のリスク、廃棄物など多方面から評価できる。			
	後期末試験			学習・教育目標：A			
	試験返却(1)						
評価方法	評価は、テーマごとに課すレポートや発表（ディスカッションなどを含む）と定期試験によって行う。レポート・発表40%、定期試験60%の配分で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教材	テーマごとにプリントやビデオ教材などを用いる。資料をまとめるためのファイルを用意すること。						
備考							